

東宝

日本国民の悲願も空しく 人類最後の時は来た!

# 世界大戦争

総天然色

フランキー堺 エド・キーン  
 宝田明 ロバート・ガンナム  
 星由里子 ベルナルト・パール  
 乙羽信子 クンプ・クーパー  
 白川由美 ハンク・ブラウン  
 笠智衆 ハロルド・コンウェイ  
 ジェリー・イザハワード・ラルソン  
 織田政雄 上原謙  
 坂部尚子 高村伸  
 中北千枝子 中村三郎  
 東野英治郎 山田村

恵二澄幸  
 宗英真友  
 林谷本中  
 松円藤田  
 監督 技 作  
 監 特 監 製

芸術祭参加作品

THE LAST WAR

脚本 八住利雄  
 監督 渡辺邦男  
 撮影 渡辺邦男  
 美術 渡辺邦男  
 音楽 渡辺邦男  
 編集 渡辺邦男  
 照明 渡辺邦男  
 合成 渡辺邦男





# 世界大戦争

## ■ものがたり

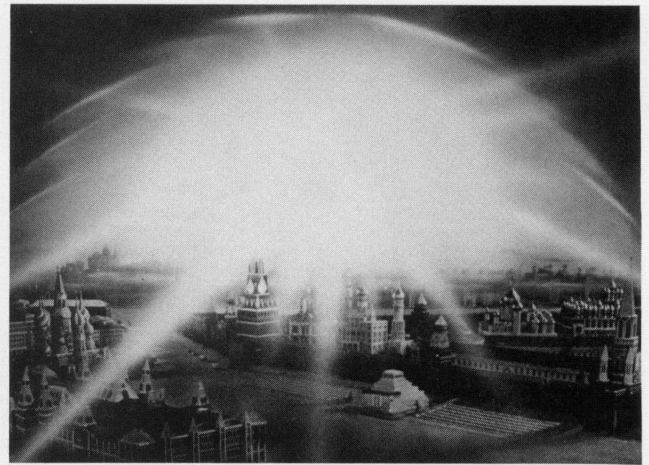
戦後十六年、東京が一面の焼野原から大都市とよばれるすがたに復興したのは、人々がいつしよけんめいに働いたからである。その東京がふたたびこの地上から消えることのないように、人々はささやかな幸せを大切にしながら生きていく。

外人プレスクラブの運転手、田村茂吉も妻と三人の子供をそだてて、ともかくも今日まで、まじしいながら幸せに生きてきた。

娘の冴子は二階に下宿している通信技師の高野との結婚をゆめみている。しかし二人はいまの国際情勢に不安をかんじていた。

同めい国、連ぼう国と二つに大きく分られた世界は、どうか平和を保っており、もしだれかが、まちがつてボタン一つを押しただけでミサイルが全人類を灰にしてしまうような状態にあった。二人はいつもこのことを真剣に考えていた。

しかし全人類の平和は各地におこりつつある戦いにより、危機においつめられていた。日本政府は何度か原水爆の使用きんしをうったえてきたが、この努力はむなしく、世界の情勢は日、一日とききな状態となり、バレーンング海上で連ぼう軍と同めい軍の戦闘機はしようとう事故からにらみ合うことになった。



高野が冴子に心をこめて船出したあと、東京は混乱の中に入ってしまった。日本国内基地からとびたつた連ぼう軍ばくげき機に對して、同めい軍の原子弾はロケットの炎とともに東京へむけ発射された。

冴子は二階にある無線で高野の送信をキャッチした。"コーフクダッタネ、トテモシアワセダッタ"愛情のこもつた音が、冴子の耳に達したところ、東京は火の海につつまれた。

この日、世界は第三次世界大戦に突入し、モスクワもパリもニューヨークも、黄色や赤やみどりの入りまじつた光が縦横に夜空を切りひらき流れたとき、巨大なビルはむざんな破片となつてちり、すべてが数万度の高熱につつまれた。東京の最後を見たのは航海中の高野だけだった。やがて放射能のために生きて東京へ帰れなくても、やはり東京へ帰りたいノ戦争はいやだ、戦争をやめよう……しかし世界大戦争はおこり、そして終つたのだ。

## ●かいつつ

この映画は、東宝が日本人の悲願を全世界の人々に訴えるために、製作費3億、構想3年、脚本は12回も改訂を重ねて製作した大作である。

原水爆戦争と、庶民のささやかな生活とを對比させて、ボタン戦争のおそろしさを、ヒューマンに描き、東宝の特撮陣が総力をあげて誰も見たこともない水爆に見舞われた東京の姿をリアルに、しかも立体音響により、さまざまの迫力で描き出している。

国際法の権威である入江啓四郎、軍事評論家の林克也、新名丈夫らの資料をもとにして構成されたオリジナル・シナリオと、日本映画演劇界の第一人者を一堂にあつめた豪華キャスト。昭和三十六年度芸術祭作品にひさわしいスケールの大きい感動のドラマに仕上がっている。

## ■スタッフ

製作 藤本 真澄  
 脚本 田中 友雄  
 監督 八住 利雄  
 撮影 木村 武  
 監督 松林 宗恵  
 録音 西垣 六郎  
 音楽 矢野口文雄  
 録音 伊玖磨  
 特技監督 円谷 英二

## ■キャスト

田村茂吉……………フランキー堺  
 " お由……………乙羽 信子  
 " 冴子……………星 由里子  
 高野……………宝田 明  
 江原……………笠智 衆  
 早苗……………白川 由美  
 ワトキンス……………ジェリー伊藤  
 外相……………山村 聡  
 首相……………上原 謙

(昭和三十六年十月 封切)